

東京工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	【教養選択Ⅰ】経済学入門	
科目基礎情報							
科目番号	00700			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子工学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	レジュメを用いる						
担当教員	宮園 啓介,鈴木 慎也,村瀬 智之						
到達目標							
本講義は、個々の人や企業が行っている選択についてと、その際に考慮される経済の仕組みやその動きなどについて学ぶ。前半は、消費者や企業の行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学ぶ。後半は一国全体の経済を論理的に把握するのに用いられるマクロ経済学の考え方をおさえる。併せて、日本経済の実態やトレンドについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深める。							
市場、インセンティブ、競争、GDP、金融、財政など、基礎的な経済学の用語について正しく理解すると共に、基本的な経済の仕組みが把握できるようになる。また、現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する視点を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	基礎的な経済学の用語の多くについて、正しく理解している。			基礎的な経済学の用語のある程度について、正しく理解している。		基礎的な経済学の用語を正しく理解していない。	
評価項目2	基本的な経済の仕組みを適確に把握できている。			基本的な経済の仕組みがある程度把握できている。		基本的な経済の仕組みが把握できていない。	
評価項目3	現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する視点を十分有している。			現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する視点をある程度有している。		現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する視点が持てていない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	経済学の考え方を身に付けるために、単に習うだけでなく使うことも取り入れる。 そのため、演習などを多く取り入れていく。 置かれた数式表現の向こうにモデル化された経済行動があることを念頭にに取り組むことが期待される。						
授業の進め方・方法	授業は、原則として、講義→問題演習（提出ミニレポート）の形で行う。 講義はワークシート風のレジュメを用いる。 問題演習においては、学生に解答発表をしてもらったり、話し合ったりすることがある。						
注意点	提出ミニレポートは成績評価（ポートフォリオ）に含まれる。 問題演習への取り組みは、態度として評価対象としている。 最終試験は客観試験型である。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
教養選択Ⅱ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 経済学的な考え方		授業の進め方と講義目的を理解する。 経済学の考え方を理解する。		
		2週	市場と需要・供給		完全競争市場の定義と均衡を理解する。 各曲線の形状・シフト・弾力性を理解する。		
		3週	市場の効率性と政府介入の影響		余剰分析ができるようになる。 数量規制や課税の影響を理解する。		
		4週	市場の失敗とその是正①（外部経済・情報の非対称性・公共財を中心に）		市場の失敗の種類を理解する。 具体的な社会問題と関連付けられるようになる。		
		5週	市場の失敗とその是正②（不完全競争市場を中心に）		市場の失敗の種類を理解する。 不完全競争市場の各類型を理解する。		
		6週	ゲーム理論		ゲーム理論を理解する。		
		7週	経済統計からみる日本経済の状況		国内総生産（GDP）、物価統計、労働統計などが読めるようになる。		
		8週	財市場分析①45度線分析		財市場の景気決定論の基礎をおさえる。ギャップと乗数理論を理解する。		
	2ndQ	9週	財市場分析②ケインズの投資理論とIS曲線		IS曲線が導出できるようになる。		
		10週	貨幣と金融市場		貨幣の性質並びに貨幣市場を理解する。 中央銀行の役割を理解する。		
		11週	IS-LM分析		LM曲線が導出できるようになる。 IS-LM分析ができるようになる。		
		12週	AD-AS分析		労働市場を理解する。 フィリップス曲線を理解する。 AD-AS分析ができるようになる。		
		13週	反ケインズのマクロ経済学		古典派、マネタリスト、合理的期待形成の主張点を既習と照らして理解できる。		
		14週	国際経済学の基礎		貿易の効果、為替決定の理論などを理解できる。		
		15週	まとめ		問題演習を通し、既習内容の習得度合いを高める。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	30	0	100
基礎的能力	30	0	0	10	15	0	55
専門的能力	30	0	0	0	15	0	45
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0